（参考様式１）議事録

令和６年度　第１回　学校運営協議会（定時制部会）議事録

校名	大阪府立大手前高等学校
准校長名	渋川　雅宏

開催日時	令和６年７月 11 日（木）15：00～16：00
開催場所	大阪府立大手前高等学校　学習室
出席者（委員）	平野　智之、平田　和也、上田　智子、堀　剛士、佐藤　道廣
出席者（学校）	渋川　雅宏、石野　靖、矢野　直子、川端　俊範、神原　優希、 砂田　純平、加藤　千穂美、山田　健太朗、山本　蒼一郎、櫻井　俊介
傍聴者	なし
協議資料	令和６年度学校経営計画及び学校評価、 令和７年度使用教科書選定一覧表及び使用教科書選定理由一覧表
備考	なし

議題等(次第順)
1　今年度の学校の状況 2　令和６年度学校経営計画及び学校評価について 3　令和７年度使用教科書の選定について 4　その他
協議内容・承認事項等（意見の概要）
1　令和６年度学校経営計画及び学校評価について 「承認」 2　令和７年度使用教科書の選定について 「承認」 3　その他（委員の意見・質問等） ・貴校には日本語指導が必要な生徒が各学年にいるようだが、日本語が十分でない生徒に各教科で日本語を指導していくことは困難を極めると思われる。貴校では日本語指導をどの時間帯でどのように取り組んでいるのか。本年度、本校の中学校（夜間学級）にネパールにルーツを持つ外国籍生徒が多数入学してきた。指導の参考としたいので教えて欲しい。 →国語科の授業の中で、日本語指導が必要な生徒を抽出して別室で日本語指導ができる非常勤講師など、数人（２～３名のときもある）で特化した授業を行っている。通常の

授業では、学習支援員等が入り、場合によっては英語も使いながら補助という形で対応しているところである。

・それは、「日本語」という特別な教育課程を編成して行っているということではなく、本来の教育課程の国語の中で実施し、外国（たとえばネパール）にルーツのある生徒は別室で、それ以外の生徒は、もともとの国語の授業をうけるということですね？また、それぞれは同じ単位数ということですね？

→ご明察のとおり。

・今のことに関連するが、学校では、学年、クラス単位で行っていることを、例えば、外国籍の生徒が全体で〇〇人在籍していて、その人たちが日本語を学ぶ部活動があり、そこで学ぶ仕組みや、中学校で不登校の経験のある生徒が全学年で〇〇人在籍しており、その生徒をみていく仕組みがないものか。部活動をうまく活用して共通の課題を解決する仕組みのようなものができないかと思っているところである。

また、個に応じた支援体制の強化についてはいいことだと思うが、大きく分けると３グループ（外国籍の生徒グループ、不登校の生徒グループ、年齢が高く社会経験のあるグループ）に対して、うまく働きかけていくスタイルはいらないのかという疑問をもった。それぞれの人数を教えてもらえればイメージがつかみやすい。

→大雑把にはそれぞれ３分の１と言える。例えば共通の課題を別で対応するとなると部活動が考えられる。また、週１回、総合的な探究の時間があり、学年の枠を超えてクラスを編成して授業をおこなっている。また、１時間目の前の０時間目の授業も学年の枠を超えて行っている。このようなものを活用して学年の枠を超えたカテゴリーで学習する時間を設けているが、平素の４時間の授業に比べれば少ない。

・府立学校の中に日本語を母語としないいわゆる枠校があり、多文化共生（オアシス）という教室（グループ）では、授業の中で、日本語の学びと同時に文化や芸術について学んだり、放課後に日本語検定取得をめざす学習の支援を行ったりしている学校もあるので、いろんな取り組みを参考として、貴校がカリキュラム改革をする際に、例えば、「コミュニケーションの支援を丁寧にするような授業」や「ソーシャルスキル向上をはかるような授業」や「外国のルーツを持つ生徒の母語保障をするような授業」を適切な名称に読み替えて、学校設定科目をつくっていく方向もあるだろうし、部活動の中で学ぶ方向もある。そこが生徒の居場所になっていく。その取り組みによる成長を生徒が発信していくことを授業の最終の目標にすることもありえると思う。

・教員の負担が大きいと思うので、部活動には外部人材を活用することがよいと思う。こういう困りごとがあるので来てほしいと言えば外部人材が来てくれるようにならないかと思う。

・日本語の資格を持っている大学生もおり、授業や部活で関わってもらえることはあると思う。学生の派遣については大学としてもとりくんでいるところである。

・高校に入学してくる生徒が少ないとのことだが、中学校との連携が少ないことが原因

の一つにあるのではないかと思う。貴校ではそのことに対して、何か具体的な取り組みを進めているか。

→中学校（夜間学級）を訪問し、相互での授業見学や学校の取り組みを報告したりしているが、昼間の中学校とはあまりできていない状況である。今年度は、訪問という形で少ない数ではあるが情報提供していこうと考えている。中学校の進路指導では１００人、２００人が卒業する中で定時制高校に行く生徒は１人いるかいないかであるので、中学校の教員には関心があまり高くないと思われる。生徒が進路先を迷ったときに、「あの時、定時制の話をしていたな」と頭の片隅にでもおいていただけたら選択肢の一つにもなるかなと感じているところである。

・子どもセンターの地域連携会議の中で、中学校卒業後の進路が決まっていない生徒が一定おられる。その生徒に対して必ずどこか進路を決定しなければならないとは思っていないが、進路を考える際に、こういったところに相談しようと生徒や保護者の頭の片隅に置いておいていただけるような取り組みができなないかということで、枚方市の教育委員会と話をし、取り組みを始めたところである。枚方市のほうでも協力できることがあれば協力したいと思う。

→６月の地域連携会議に本校からも参加させていただき、本校のパンフレットも配付させていただきました。感謝します。

・府では不登校の府立高校生のための適応指導教室があり活用することができるが、まるっとこどもセンターは福祉も教育も保育もトータルでやっていくと聞いているので、不登校の方が貴センターを活用し、連携していくことが大事であると思う。

・自立センターでは自立訓練を行っているが、中学校から不登校で、高校・大学には行っていない。２０歳くらいなってから、自立訓練に通うようになった利用者さんが定時制高校に通うようになったケースがある。その方は通級指導教室のある学校には顔を出したので、通級指導教室のある学校から定時制高校に行こうと考える可能性がある。その方面にも声掛けをしてはどうかと思う。中学生で児童デイサービスを利用している生徒の中には、定時制高校に行く生徒がいるかもしれない。

次回の会議日程	
日時	令和６年 11 月 14 日（木）17:00～19:00（予定）
会場	大阪府立大手前高等学校　１階大会議室　及び　３・４階ＨＲ教室等